

平成 29 年度新規案件に係る事前評価結果について

第 48 回研究評価委員会において審議された 3 件の事前評価結果は以下の通り。

案件名	ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト
推進部署	ロボット・AI 部
総合コメント	新市場分野を開拓する期待が極めて大きい領域であり、当該分野の優位技術を確認していく上で、推進すべきプロジェクトである。運営にあたっては、将来の社会システムを想定し、運行管理システム、安全性・信頼性、国際標準化、法・制度的課題等を考慮し、人選・権限を含んだマネジメントに係る検討も同時に進めること。また、ドローンと陸上・水中ロボットは開発フェーズが異なるので、標準化を連携して進めつつ、開発計画・目標はそれぞれで整理し、区別すること。

案件名	バイオジェット燃料生産技術開発事業
推進部署	新エネルギー部
総合コメント	バイオジェット燃料の実用化は、省エネと資源安全保障の観点から意義が高く、ハイリスクであることから国のプロジェクトで進めるのは妥当である。エネルギーと物質の収支を分析し、温室効果ガス以外の環境影響評価も考慮した上で、トータルシステムの概念設計を行い、サプライチェーンとコストを精査すべきである。また、過去のバイオ燃料関連プロジェクトで抽出された課題を十分吟味し、本件の開発項目・目標と計画を設定すること。

案件名	高効率な資源循環システムを構築するためのリサイクル技術の研究開発事業
推進部署	環境部
総合コメント	資源・環境エネルギー戦略の上で、国として取り組む必要があり、リサイクルにおける日本の先導性を国際的に波及させる意義も大きい。動脈産業と静脈産業をどう繋げ、どういう位置付けで情報連携するかシステム設計検討を早急に開始すること。また、技術開発のみならず、法規上の課題を含む社会システムの構築が重要である。アウトカムは、資源効率の定量的指標を各段階で設定し、前倒しで推進するべきである。